

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272201136		
法人名	有限会社 ツェルン		
事業所名	グループ・ホーム・オアシス		
所在地	千葉県柏市柏下218		
自己評価作成日	平成27年2月20日	評価結果市町村受理日	平成27年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACoBA
所在地	千葉県我孫子市本町 3-7-10
訪問調査日	平成27年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

北柏駅より徒歩15分の便利な地にあり、大学病院や老人保健施設が隣接している為、緊急時には高度な医療の受診が可能である。また周辺には柏公園、ふるさと公園、文化会館なども近く、自然豊かで緑が多い為晴天時に行っている散歩では四季の移り変わりを肌で感じる事ができる。建物は平屋建て全館バリアフリーの安全な設計になっており、約8畳の個室と日当たり充分な談話室、中庭からの光を取り入れた開放的な造りは、入居者及びご家族にも好評である。特色としては、夏季は毎日の入浴、三食手作りの食事には家庭菜園の無農薬野菜も利用している。また夏にはホーム敷地内から見える手賀沼花火大会に合わせて納涼祭を行うなど、家族参加の季節行事も行っている。行事の際は入居者にもお手伝い頂いて、スタッフと一緒に食事作りをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム長の親の介護が契機で開設され12年目を迎えた事業所である。「家庭的で、のんびりゆったりした場所を提供する」思いで設計された南欧風の建屋は、明るく広く開放的である。開所以来の職員は4割を占め5年以上の勤務者は7割と経験豊かな職員が多く、利用者と長年かけて築いた馴染みの関係が出来ている。利用者の平均年齢が90歳となり介護度が高まっているが、恵まれた環境の中で利用者は思いのままに寛いでおり、穏やかな雰囲気では我が家の感じすらある。ホーム長は職員の育成に特に配慮しており、若手職員の成長も早く定着率も高い。また、幾つになっても働ける職場環境があり、運営への高い参加意識で満足度の高い介護に邁進している。経験豊富な職員によるきめ細かな対応は、家族からも信頼されて高い評価を受けている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「おだやかな笑顔と寄り添えあえる暮らしを私たちの心で応援します」を理念とし、常に目の届く所に掲示している。また、スタッフ会議時、定期的に全員で理念を読み返し、意識するように努めている。	開所にあたり、職員全員で理念を決めたものであり、玄関に掲示されている。理念は会議等で定期的に確認しあい、利用者が穏やかに、希望している事がやれるような支援をしているかを振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に近所の方との挨拶、小さい子どもとの交流もある。近隣の農作物を頂く機会も多い。昨年より町会の回覧板も回して頂けるようになったので、町会行事に参加できれば良いと思う。	町会の賛助会員として加盟している。散歩時に近隣の方との挨拶や、町会の行事には民生委員から積極的に誘ってもらう関係もある。地域の方からの介護相談にも対応している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	常に相談窓口として開かれており、急な来訪や電話相談にも快く対応している。また、制度的な説明や市内にある他のグループホームの紹介も行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年3回開催しており、家族の代表者、民生委員、地域包括支援センター職員の他、入居者4名に日々の暮らしの感想などをお話頂いている。ご家族より家族会の開催の希望があり、現在検討中である	年3回実施し、家族代表、民生委員、地域包括センターの参加を得て、細部にわたる報告がなされ、利用者による暮らしの報告も含め、理解を深めている。現在、開催回数の増加と家族会の開催を検討中である。	既に計画されてはいるが、運営推進会議の開催回数を増やすことに具体的に取り組んで頂きたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	柏市グループホーム連絡会、柏市介護サービス事業者協議会理事会を通して市役所担当者とは日ごろから頻繁に連絡を取り合っており、昨年末は5年に1度の事業所の指定更新も無事に終了した	事務長は柏市グループホーム連絡会、柏市介護サービス事業者協議会の役員、理事であり、市とは定期的情報交換含め、緊密な関係が出来ている。上記会議の中心メンバーとして参加し、情報や課題を確認し、運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご家族からの要望もあり、玄関は一部施錠しているが、基本的には常に開錠されている他、身体拘束廃止についてのマニュアルの常設、職員の研修受講等積極的に取り組んでいる	市の開催する研修含め外部研修があれば参加し、同時に内部研修を実施して全員への徹底を図っている。玄関のみ家族からの要望で施錠するも、見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを設置し、全職員に周知徹底している。過去に柏市の虐待防止委員を勤めたこともあり、研修の受講等力を入れている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内に成年後見人制度を利用されている方もおり、随時相談を受けている。また、社会福祉協議会とも連携を取り、成年後見人の養成研修の受け入れを行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時には一文ずつ読み合わせを行い、その都度疑問点をご説明している。また、退所時には清算書を添付して、分かりやすくご説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来所した際に頂いたご意見は毎月の会議で全職員で話し合い、対応している。また、利用者とは何でも話し合える信頼関係を築くよう努めており、会話の中から要望を汲み取れるよう心がけている	長期入居者も多く、利用者・家族との付き合いも長く、何でも話し合える関係ができています。新しい利用者・家族とはじっくり話し合い、意向や希望を汲み取るようにしている。要望は全職員で共有し、対応している。	アンケートに「変化何かあればすぐ電話をくださる」とのコメントがある一方、一部にホームからの報告が十分でないと受け止められる意見もあるので、対応を検討願いたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から管理者が中心となり、職員の要望を聞き、迅速に対応している。月1回の会議でも意見交換ができるよう、発言の機会を設けている	事業所内のコミュニケーションは良く、何でも話し合える雰囲気があり、積極的に意見が言える。同時に、年1回の管理者面談や毎月の会議、担当者会議を通じて意見を確認し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成時には職員の希望休を反映させるよう努力している他、年1回、面接を行い、働き方の希望や労働時間の希望を聞いている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム外の研修の機会を多く設け、勤務日の調整をする等、研修が受けやすいように努めている。また、入職時には独自の新人研修メニューに則って、統一したケアを学べるように配慮している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会主催のスタッフ交流研修会や、事業者協議会主催の交流会などに参加し、他のグループホームや他の介護サービス事業所スタッフと交流する機会を設けている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネージャーを中心にご本人の不安な気持ちに寄り添い、耳を傾けて健康面、精神面共に十分な配慮をしている。また、他の利用者の輪の中に入れるように支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在の生活の様子やご家族の悩み、ご要望等を入所時に記入して頂き、内容を確認しながら聞き取りを行っている。ご家族の苦労や悩みに寄り添い、信頼できる関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記で聞き取った内容を元に、現在必要なケア方法を提案している他、訪問マッサージ等他のサービス利用も提案するなど、臨機応変に対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来る事、出来そうな事をスタッフで検討し、得意分野を活かした暮らし方ができるように支援している。また、共に暮らす仲間として信頼関係が築けるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回おたよりで近況を報告しているほか、こまめに連絡を取り合い、スタッフとご家族の間に温度差ができないように努めている。ご本人をご家族とスタッフで支え合う環境を大切にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族や友人との手紙や電話のやり取りを支援しており、訪問しやすい環境づくりを心がけている。実際に遠方から利用者の昔の生徒さんや友人が尋ねてくる事も度々ある	親戚や知人への年賀状や子からの年賀状返信、電話で話すこと等を支援している。元教師の方も何人かいて、同僚だった方や教え子の来訪や、柿を送ってくれる方もあり馴染みの関係が継続されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員で楽しめるレクリエーションを実施している他、共通の趣味や話題等から友人関係を築けるように支援している。スムーズに交流できるようフォローし、なるべく1人にならないよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者のご家族が来訪され、近況報告や相談をされるなど、退所後も継続した関係性を築いている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の何気ない会話から、希望や意向を汲み取るよう努めている。場合によっては改めて1対1で聞き取りを行い、会議で検討後ケアプランにも反映させている	普段から本人と同じ目の高さで話すことを心がけており、会話の中から希望や意向の把握に努めている。困難な場合は生活歴や家族から伺ったり、動作等から汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族に生活歴や暮らし方について書面に細かく記入して頂き、スタッフ全員で把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康チェックを毎日欠かさずに行い、1人ひとりの状況の変化は記録して、朝夕の申し送りですべてスタッフが把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心にご本人、ご家族から聞き取った内容を元に、月1回のケース検討会議でスタッフ全員で話し合って作成している。	本人の様子や家族の希望、個人記録、連絡帳、居室担当の意見等を基に月1回のケース検討会議で話し合い現状に即した介護計画を作成している。毎月モニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を1時間ごとに記録し、スタッフ全員が共通の情報を共有して把握できるようにしている。特変時には更に細かく記録し、申し送りと合わせて活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常、お暮らしの中で今何が必要なのかを見極め、その時々でできる範囲で柔軟なサービスが提供できるよう努めている。また、他の医療機関を受診する際には日常のご様子を伝える為に職員が同席するなどのフォローも行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月1回、紙芝居、囲碁、法話、園芸のボランティアさんに来て頂いている。また、図書館を定期的に利用したり、中学校の職場体験学習を受け入れる等地域との関わりを大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医についての聞き取りを行い、今まで通院している病院を継続して利用できる他、月2回の内科往診、週1回の歯科往診がホーム内で利用できることもご説明している。	月2回の内科医往診の他、毎週の歯科医訪問ではブラッシング指導や歯垢除去など口腔ケアが留意され「口から食べる大切」に繋がっている。週2日の看護師の在勤があり、安心に繋がっている。今までの通院先受診には家族が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回非常勤で看護師が勤務しており、1人1人について細かく連絡帳に記載してスタッフと連携している。また、ターミナル期にはご家族、主治医と相談の上外部の訪問看護を依頼し、利用している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを提出し、日常の様子や状況などを詳しく伝えている。職員が頻繁に訪問し、ご家族の相談に乗ることも多い。退院時には医療サマリーをもとに、退院後の生活の注意点など細かく指示してもらい、統一したケアに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じてご家族をと今後の方針について話し合い、ホームでの看取りを希望する場合にはご説明の上、書面で緊急時の処置に関する同意書をとっている。また、医療機関と連携し「登録患者制度」を利用するなど、ご家族とご本人にとって一番良い方法を一緒に考え支援している	入居時に事業所の方針を話している。重度化したときに特別な医療を必要とせず、かつホームでの看取りを希望する場合には同意書を頂いている。医師や看護師など医療機関と連携し、本人と家族にとって無理のない一番良い方法で支援に取り組んでいる。開設以来これまで何人かの方を看取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時のためのマニュアルが設置されている他、月1回の会議時にケースに対応した研修を行い、常に全職員が対応できるよう努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、1回は非常時を想定して炊き出し訓練を行っている。また、近隣高台に住むスタッフと河川氾濫時の避難先として提携している。今後は町会と協力してより地域と協力できると良いと思う	消防署指導を含め年2回の避難訓練を行い、自主訓練では炊き出しを経験した。周辺は大堀川が流れる低地で、河川氾濫時には近隣高台に住む職員宅を避難先として確保している。今後は地域との協力体制を築けるように交渉する予定である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人にあった声掛け、言葉遣い話し方に配慮している。また、会議時には統一した声掛けや対応ができるように配慮している	名前は苗字で呼びかけ、それぞれの方に合った節度のある言葉遣いで対応している。排泄誘導時には大きな声は出さない、トイレのドアは閉める等プライバシーや羞恥心に配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から、興味のあること、やりたい事を聞くことができるように工夫している。個別に対応してお話を聞く時間を取る場合もある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースを第一に、希望や要望を聞きながら生活できるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る洋服を選んだり、お化粧を楽しんでいる方もおり、毎朝の身支度(髪をとかす等)を習慣にしている。必要に応じて訪問カットを利用したり、ご家族と馴染みの美容室に通う方もいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日にはご本人が希望するメニューを作ったり節目のお祝いには鯛を焼いてお祝いし、喜ばれている。また、毎食時テーブル拭き、下膳を職員と一緒にやっている	食べる楽しみを支援している。外食や行事食を始め、本人の希望する料理を戴く誕生会は皆の楽しみで、米寿の方には鯛の尾頭付きで祝っている。テーブル拭きや下膳など職員と一緒にいき、また状態に合わせてとろみ食などの対応をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、必要な方には水分チェックを行っている。メニューは献立表に食材等を細かく記入し、嚥下状態に合わせて形状を変えている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕の口腔ケアを全員欠かさずに行い、必要な方には訪問歯科の口腔ケア指導も受けている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人記録に詳しく記録し、排泄パターンを把握してトイレ誘導に生かしている。職員は素早く対応できるように工夫し、プライバシーにも充分に配慮している	個人記録表で排泄パターンを把握して日中はトイレ誘導している。排泄は運動量と食事が密接に関連するので、毎日の散歩や野菜を多く取り入れた食事など、多方面からのサポートに努め体力維持を図り、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量、食材を考えて工夫したり、毎日の散歩に加えて体操やレクを取り入れて自然に排泄できるように努めている。個々の排便パターンを把握できるようチェックして、必要に応じて下剤も利用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めしめずに、個々にそった支援をしている	夏は毎日、冬は隔日に入浴を行い、入浴前には血圧測定をして健康チェックをしている。入浴できない方には希望に応じて足浴をする等、少しでも満足して頂けるように努めている	入浴前には血圧測定をして健康チェックを行い入浴を楽しんで頂いている。入浴できない方には清拭やシャワー浴、足浴をする等、個々に沿った支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日のご様子をみて昼寝をして頂くなど、必要な休息が取れるように個々に対応している。また、頻繁にシーツ交換や寝具を干して快適に睡眠をとれるように配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬は基本的に看護師が行い、個人別に服薬ファイルを作成して職員が目的、副作用について理解できるようにしている。また、服薬時には最新の注意を払い、必ず見守ることを徹底している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換のために毎日皆で行えるレクリエーションを実施している他、できる方にはお手伝いの役割分担を行って、食事の支度や清掃、食事時の挨拶などをしてもらっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候、天候に合わせて個別で外食やお買い物、図書館等、外出する機会を作っている。季節ごとにはできる限り全員で出掛けて初詣やお花見を楽しんでいる。また、ご家族と温泉や旅行に行かれる方も多い。	天気の良い日は散歩をしている。途中あいさつしたり野菜を頂いたり、すっかり地域に馴染んでいる。初詣や花見に出かけたり、日常では買物や図書館行き等、外出する機会を作っている。また、家族と温泉や旅行に行かれる方も多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金所持により、物盗られ妄想の症状が出る方が多く、トラブル防止のためにお買い物は基本的に立替払いにしているが、外出の際にはご本人に支払いしてもらう機会を作り、日頃の生活で行ってきたことを継続できるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人や家族からの電話の取り次ぎや、希望に応じてこちらから電話をすることもある。お手紙や年賀状の作成などを定期的に行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に季節行事の飾りをしたり、季節の草花を飾る事で自然に今の季節が感じられるように工夫している。共用部分の匂いや汚れには特に注意を払い、常に清潔になっているよう心がけている。	玄関は、お雛様などの季節の飾りものや、室内には花や観葉植物が配置されている。中庭を望む広い居間では、皆で集いお喋りや洗濯物たたみ、ドリル等を楽しんでいる。習字や折り紙など多様な作品創りは、利用者のQOLの向上に繋がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内2箇所に談話スペースがあり、日当たりも良く利用者同士の憩いの場になっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具を持ってきて頂く他、写真や絵を飾る等、ご本人の居心地の良い空間作りを心がけている。また、希望があれば仏壇の持ち込みも可能になっている	居室や押し入れは広めに作られており、使い慣れた家具や寝具を持ち込み、また写真や絵を飾ったり、仏壇を置いている方もある。趣味の刺し子やパッチワークに打ち込む方やお琴を弾く方など、それぞれに居心地の良い空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はすべてバリアフリーになっており、廊下やトイレ、居室内は歩行器や車いすを利用しても十分な広さがある。また、居室やトイレが分かりづらい方には分かりやすいように目印を付ける等配慮している		